

優秀賞

## 壁を越えて

郡山市立郡山第四中学校 2年

佐藤 永彬

「永くうん、広くうん。」

その声を聞き、僕は弟と一緒に庭へと走る。裏の鶴田さんが、休校中家で過ごす僕たちのためにケーキを作ってくれたのだ。いつも、手作りでおいしいおかずを壁越しにいただいている。このやり取りが面白く、またありがたいと僕は思う。

また、登校しようと家を出る僕に、

「行つてらっしゃあい。」

と壁から顔を出し笑顔で送り出してくれるのは、北隣の奥山さん。いつも朝のシーンだ。

今年の夏、僕にはちょっとした悩みができた。僕の癒しである金魚に、新しく大きな水槽を購入し、その台として父の手作りベンチに目をつけたのだが、それに問題があったのだ。座面の木材に段差があるため、そのままだでは水槽が傾いてしまう。その位大丈夫と母は言うが、ガラス面にかかる水圧が偏って割れる恐れがあることなど、全然分かっていない。そして何より、金魚がかわいそうだ。

「段差さえなくすれば……。」そのとき思い浮かんだのが南隣の大越さんだ。大越さんは、小屋を増築したり木材でくるみ割り機を作ったりと、何でも自分で作ってしまう。まさに「スーパーおじいちゃん」だ。大越さんなら、この悩みを解決してくれるかもしれない……。

大越さんは電動工具を貸してくれた。父の手によって問題の段差が削り取られていく。僕の悩みも削り取られた。さすが大越さん。

僕は心からお礼を言い、缶コーヒーとアイスを渡した。すると、  
「はい、これ。持って行きな」

と言つて、トマトやキュウリを袋いっぱい持たせてくれた。感謝を伝えに行つたのに、いつものように、さらにいただいでしまった。

壁を感じさせない近所の方との心地よいやり取りを、僕は大切にしたい。そして、しっかり学び、僕自身も周囲の人に優しくできる人になる。それが、今まで近所の方から受けてきた好意に応えることになると思つて。